

Japan Patent 73-24,984

Bibliographic Information

Impregnation of porous materials with active component solution. Ane, Toshio; Suzuki, Kenichi. (Taisho Pharmaceutical Co., Ltd.). Jpn. Kokai Tokkyo Koho (1973), 2 pp. CODEN: JKXXAF JP 48024984 19730331 Showa. Patent written in Japanese. Application: JP 71-57554 19710802. CAN 79:45302 AN 1973:445302 CAPLUS

Patent Family Information

Patent No.	Kind	Date	Application No.	Date
JP	48024984	B4	19730331	JP 1971-57554 19710802

Abstract

Porous material is impregnated with an active-component soln. by soaking it under reduced pressure and then increasing the pressure to normal. The process allows rapid and homogeneous impregnation of such porous materials as poisonous gas removing agents, medicines, insecticides, deodorants, etc. Thus, Multopren was impregnated with a mixt. contg. Na₂CO₃ 1.8, active carbon 2.4, CM-cellulose 1.0, and water 94.8 g kept at 45 mm Hg, and pressure was increased to normal. The impregnated Multopren was removed from soln., dried, and cut into desired shape to obtain material suitable for use in gas-masks.

Patent Classifications

U.S.: 13(9)F2.

Indexing -- Section 59-2 (Air Pollution and Industrial Hygiene)

① Int. Cl.
C 10 m 3/00

② 日本分類
54 B 101
12 C 201

③ 日本国特許庁

④ 特許出願公告
昭48-24984

特 許 公 報

⑤ 公告 昭和48年(1973)7月25日

発明の数 1

(全4頁)

1

2

⑥ 熱間潤滑組成物

⑦ 特 願 昭44-73022

⑧ 出 願 昭44(1969)9月13日

⑨ 発 明 者 松尾興二

川崎市南渡田町2730日本鋼管
株式会社京浜製鉄所内

同 永井裕

同所

同 山下肇雄

同所

同 小林義弘

神奈川県高座郡寒川町大字由端
1580 ユシロ化学工業株式会社
神奈川工場内

同 地村正

同所

⑩ 出 願 人 日本鋼管株式会社

東京都千代田区大手町1の1の3

同 ユシロ化学工業株式会社

枝方市中宮2798

⑪ 代 理 人 弁理士 吉原省三 外2名

発明の詳細な説明

本発明は熱間塑性加工に使用するアスファルト 25
基体の潤滑組成物に関するものであり、固状アス
ファルトと黒鉛を使用するに簡便なるように極め
て安定に乳化、分散しうる熱間潤滑組成物を提供
することを目的とするものである。

一般に熱間塑性加工用潤滑剤としてはスピンド 30
ル油、マシン油、タービン油、重油、牛脂、豚脂、
ナタネ油等の有機油状物、ガラス粉末、黒鉛、ベ

公害防止上極めて好ましくないものである。無機
粉体の場合は加工時の供給に甚だ不便であり、ま
た油状物に混合使用される場合に沈降し、均一な
分散体とはならず、無機粉体による固体潤滑効果
5 は充分に得られず、現在では人手による供給が行
われ、不均一な作業をよぎなくされている。

本発明者等は種々研究の結果、アスファルトを
巧くみに乳化し、その中に極めて安定に黒鉛を共
存させることによつて熱間潤滑性能を揚うことな
10 く、上記従来物の諸欠点を完全に除くことが出来
ることを見出した。

高温における塑性加工では工具の表面が傷つき
やすく、素材の硬い酸化膜も工具にとつて有害で
あるので供給される潤滑剤も高温高压によく耐え、
25 かつ硬い酸化膜の影響を減少するものでなくては
ならない。アスファルトは一般に他の鉱油類より
引火点が高く、かつ高温、高压下での変質速度が
遅く、溶融時において優れた展延性を有するので
熱間塑性加工潤滑油に最適である。

30 本発明の熱間潤滑組成物はアスファルトを織成
基材とし、これにノニオン界面活性剤、アニオン
界面活性剤、黒鉛、水溶性保護コロイド剤より成
るものである。即ちアスファルトとしては天然ア
スファルト、アスファルタイト、ストレートアス
ファルト、ブローンアスファルトが使用出来、好
ましくはストレートアスファルト、ブローンアス
ファルトであるが、なかでもストレートアスファ
ルトが乳化しやすく好ましい結果を与える。工具
表面への油分の有効な展着性はその系の乳化の深
浅に大きく左右されるので選択されるアスファル
トの種類によつて使用される界面活性剤の種類と
量は変動される。またアスファルトの粘度によつ

BEST AVAILABLE COPY